

あ・と・が・き

昨年は調教場利用馬のカワカミプリンセス号がオークス・秋華賞優勝と、活躍してくれました。また、昨年12月からは待望の屋内坂路が1000mに延長され、供用が再開しておりますので、今年は更なる活躍馬の誕生を期待しております。なお、今月から馬場使用料が諸般の事情により値上げとなりますが、ご理解の程よろしく申し上げます。

昨年の4月に入講した研修生は、順調にカリキュラムを消化し、今では厩舎作業も板に付いてきました。昨年秋に実施したJRAの若馬での馴致実習に続き、今月からはそれらの馬での騎乗訓練に入り、より実践的な段階へと進み、この春の卒業へ向け頑張っております。(Y.H.)

「たづな」欄はこのたび生産育成対策を担当されることになりましたJRA西村啓二理事にお願いしました。景気は回復の兆しが見られ始めましたが、競馬産業界はまだまだです。生産地においては軽種馬協会の軽種馬経営高度化指導研修事業を大いに有効利用していただいて活気を取り戻してほしいと思います。

「調査研究」欄は他のコーナーを割愛して、ディープインパクトの走りについてセミ特集を組みました。バイオメカニクスと聞くと難しそうですが、わかりやすく解説してあると思います。この原稿はJRA競走馬診療所がトレセンの厩舎関係者向けに定期的に発行している雑誌「競走馬」に掲載されたものであり、また「ディープの走行フォーム」として日本ウマ科学会で発表され、マスコミに大きな話題を提供したのですが、その内容にさらに天皇賞と宝塚記念のデータを追加して寄稿していただきました。競走馬の競走中のデータは本邦初、いや世界初と思います。お楽しみください。

「サイエンティストからの提言」欄は国の内外で活躍中の坂本調査役にお願いしました。情報を提供する方も、される方も情報を正確に収集し、正確に分析することはたいへん難しいことですが、それがせり市場の信頼を増し、繁栄をもたらすと思います。(H.H.)